

一忍可以支百勇一静



「盡己」(じんき)

龍堂の儒学者長孫一磨が、その妻子である山田芳谷が自家の塾舎の奥に龍井山に作ることになったとき、この「盡己(じんき)」という言葉を贈ったと云う。

「盡己(じんき)」とは、文字通り、己を尽くすことである。

物事に対して「自己の全てを尽くす」「誠心誠意を尽くす」ということだ。

自己を反省せずに自分の生き方を顧み上げて、他人のせいにしていく精神からは、何も生まれてこない。全ては、自分の責任である。

「己の儘に生きてく」龍堂一磨の努力をみる」と道はそこに託せるのだ。このことは、あらゆることに共通したことであり、言葉より多くの気遣いや覚悟が込められている筈である。

「作品」
小泉 龍堂 龍堂 龍堂
小泉龍堂監督の映画「龍堂 龍堂のサムライ」の制作に「盡己」の掛け軸が寄贈された。令和4年(2022)年11月17日(金)公開(先行上映あり)。令和4年12月11日(日)劇場で先行上映会が行われる。小泉龍堂監督の映画制作に「盡己」の掛け軸が寄贈された。龍堂龍堂監督の映画制作に「盡己」の掛け軸が寄贈された。龍堂龍堂監督の映画制作に「盡己」の掛け軸が寄贈された。

今月の表紙

【「盡己」の掛け軸を寄贈いただきました】
小泉堯史監督から町に、河井継之助を描いた映画の劇中で使用された掛け軸を寄贈されました。
この掛け軸は、日本藝術学院会員の星弘道氏の作品で「盡己」と書かれています。
掛け軸は現在、河井継之助記念館に展示されています。

《特集》
おかえり。JR只見線全線運転再開 2～3
只見町の森林・林業と薪エネルギーの利活用 4～7

《News&flash》 8

《町の話》 9～11

